



ろうさい病院 つうしん

発行所: 中部ろうさい病院

〒455-8530 名古屋市港区港明1-10-6
<http://www.chubuh.rofuku.go.jp/>

TEL: 052-652-5511
FAX: 052-653-3533

「脳卒中センター」始動!



脳神経外科部長 服部 和良

吉田院長の専門医療センター構想のひとつとして、今年1月より、「脳卒中センター」が発足しました。「脳卒中センター」は、神経内科と脳神経外科がより緊密な連携を取りながら核となり、救急部、リハビリテーション科、看護部、医療連携室と協調して脳卒中診療の質を高めてゆくことを目的としています。

まず取り組んだのは、脳卒中連携パスの運用です。現在、6施設の回復期リハビリ病院との連携が確立し、運用以来約60名の患者さんが、急性期から回復期へとシームレスなリハビリを目指して転医されました。

また、神経内科と脳神経外科とが共同して、超急性期脳梗塞のt-PA（組織プラスミノゲン活性化因子）を用いた血栓溶解療法とメルシー Merci retriever（血栓回収デバイス）を用いた血栓除去療法のプロトコルを策定し、件数を重ねています。

救急部門では、救急部と連携してiPadを用いた画像転送システムを導入しました。これにより、救急外来でのCTやMRI画像を即時に院外の神経内科医や脳神経外科医が閲覧できるようになり、救急搬入から治療までの時間的ロスが大幅に短縮されました。

そのほか、脳卒中リハビリテーション看護認定看護師の育成、近隣の開業医の先生方や救急隊員の皆さまを対象にした「脳卒中セミナー」の開催などなど。



第2回 脳卒中セミナー (H24. 7.19 開催)

現在のところ、「脳卒中センター」には看板も外来部門もありません。脳血管障害が疑われる患者さんは、従来通り神経内科、脳神経外科、救急外来に紹介して頂ければ結構です。表向きには見えませんが、院内では着実に既存の関連部門が、より緊密に、有機的に連携して「脳卒中センター」として機能し始めています。

脳卒中地域連携パスの運用について

第二神経内科部長・脳卒中内科部長 梅村 敏隆



脳卒中は一旦発症すれば重篤な後遺症を残すことも多いことから、極めて社会的損失度の高い国民病です。現在患者数は全国で約150万人、死亡率はがん、心臓病に次いで第3位で年間約13万人が亡くなっています。また脳卒中は65歳以上の寝たきり原因の約4割を占め、家族の介護負担に大きく影響し、国民医療費の約10%を占めています。脳卒中は脳梗塞、脳出血、くも膜下出血に分類されますが、その約4分の3を脳梗塞が占めています。近年高齢者における心房細動の増加、食生活の欧米化に伴う頸動脈病変の増加により、心原性脳塞栓症やアテローム血栓性脳梗塞が増加していることが全国調査でも指摘されています。超高齢化社会に突入した我が国においては、脳卒中が要介護者を増加させ医療経済を圧迫することは避けられません。また、脳卒中患者のトリアージを効率よく行うためには地域住民への啓発、かかりつけ医や救急隊員への教育も重要であり、当院でも2011年度から脳卒中セミナーや市民公開セミナーを実施しております。院内の脳卒中専門チームによる脳血管内治療、iPadによる画像転送システムを用いた急性期診療や、在宅復帰を目指す回復期リハビリ病院との連携も徐々に整備されつつあります。一方、脳卒中慢性期の生活安定化やQOLの向上を目指す施設（維持期療養病床）や在宅におけるかかりつけ医の役割も非常に重要であります。各施設間での連携を強化し、急性期、回復期、維持期の切れ目のない脳卒中診療体制を確立することが重要であり、そのためのツールが脳卒中地域連携パスです。2006年の診療報酬改定で大腿骨頸部骨折に対して地域連携診療計画料が新設され、2008年には脳卒中にも適応が拡大されました。現在、当院で使用しているパスは名古屋脳卒中地域連

携協議会で作成された連携パスと共通のオーバービューパスとなっています(図)。

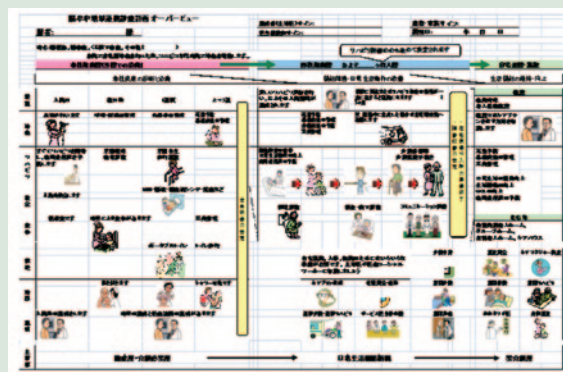


図 オーバービューパス

急性期、回復期、維持期の施設におけるスタッフ、かかりつけ医などがお互いに理解を深め、共通のゴールに向かうために役割分担が明確化されていることも特徴です。かかりつけ医は急性期・回復期施設からの情報提供（具体的な患者情報はパスシートに記入）を受け、入院中に策定されたケアプランが有効に機能しているかを経時的に評価し、必要に応じて介護保険サービスの追加、変更を行い患者のADL低下を可能な限り防止する役割も担っています。急性期、回復期病院とface-to-faceの診療ができるよう、今後はかかりつけ医の先生方にもこの脳卒中連携パスを活用できるよう働きかけたいと考えています。脳卒中再発予防（特に生活習慣病の管理と心房細動を有する患者の管理）のみならず、QOLの向上を見据えた在宅医療におけるかかりつけ医の果たす役割は今後ますます重要になると思われます。我々急性期病院のスタッフも回復期リハビリ病院のみならず、かかりつけ医との連携をさらに強め、質の高い脳卒中地域医療の発展をめざして頑張りたいと思いますので、今後ともご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

就任のご挨拶

循環器内科部長 植谷 忠之



当院連携医の皆様には、平素より格別のお引き立てを賜り厚くお礼申し上げます。本年1月より天野哲也循環器内科部長が愛知医科大学循環器内科教授に就任されたため、その後任として私が平成24年1月1日付で循環器内科部長ならびに本年より新設される循環器センター長を拝命致しました。

私は名古屋市南区の開業医に生まれ、大学進学まで名古屋で育ちました。平成6年に富山大学医学部（旧富山医科薬科大学）を卒業し、同年春日井市民病院にて初期研修を行い、平成8年に循環器内科医として市立四日市病院に赴任し、5年間勤務しました。平成13年より名古屋大学医学部大学院に進学し、平成16年に卒業、当院に赴任しました。当院赴任後は丸井副院長、天野前部長の指導のもと、主に虚血性心疾患を中心に循環器内科一般診療に従事してきました。新病院移転、診療機器の充実ならびに連携医の皆様のご支援もあり、この8年間で心臓血管外科の開設と共に循環器内科の症例数も大幅に増加し、様々な先端医療の導入も行われ、当院循環器内科は市内でも主要な循環器診療施設の一つとして発展してまいりました。

7月よりこれまで一緒にやってきた吉田朋寛、原田憲、加藤文一、国村彩子、北川勝英、原田一宏に加えて、名古屋大学より篠田典宏、浜松医療センターより高山洋平、愛知医科大学より竹下昌宏の3名が加わり循環器内科の医師は総勢10人となりました。さらに以前より南木道生看護専門学校長、丸井伸行副院長・救急部長、加藤真隆検査科部長にも診療にご協力頂いており、現時点ではかなり充実した態勢となっております。従来からの虚血性心疾患の診療に加え、近年では不整脈に対するカテーテルアブレーション治療ならびに重症心室不整脈に対する植え込み型除細動器や難治性心不全に対する心室同期療法（CRT）の症例も増加しております。また間歇性跛行や従来では下肢切断もやむを得ない様な難治性創傷を伴った末梢動脈疾患（PAD）に対するカテーテル治療も年間50症例以上行われており、かなり技術的に困難な症例に対しても成績が安定してきております。また

寺西克仁心臓血管外科部長には腎障害など合併症の重なった症例をお願いする事も多いのですが、昨年以上のペースで手術を施行していただいております。今後ともスタッフ一同と共に、より一層皆様の要請にお答えできるよう循環器内科・循環器センターを充実させていこうと考えております。

当院のある名古屋市南部の特徴として他地域と比較してもかなり高齢化が進行しており、循環器内科においては入院される方のほとんどが糖尿病・慢性腎臓病（CKD）、認知症、脳血管障害などいろいろなproblemを抱えておられ、中には入退院を繰り返す方も珍しくありません。このような方々の治療方針の決定においては心臓血管外科と共にハートチームとして集学的な検討を行う事に加え、二次予防を改善し、侵襲的治療に伴う合併症を減らすためにも糖尿病・内分泌内科（糖尿病センター）、腎臓内科、神経内科、脳神経外科等と協力して包括的な診療を行えるよう、当院ならではの診療体制を構築していこうと思っております。

6月に当院にて開催させていただきました第14回ろうさいハートクラブでは、多くの先生方にお集りいただき大変ありがとうございました。また病診連携アンケートにもお忙しい中、多くの連携医のみなさまからのご回答をいただき、厚く御礼申し上げます。アンケートの結果を今後の病診連携活動に生かしていくとともに、近日中に皆様にもフィードバックさせていただきますので、ご参考にしていただければと思います。

また10月27日土曜日に名古屋マリオットアソシアホテルにて、当科主催の病診連携講演会・症例検討会を予定しております。後日改めてご案内させていただきますので、是非ともご参加いただきますようお願い申し上げます。最後になりましたが、連携医の皆様のみなさまのご発展をお祈りし、今後とも当院循環器内科・循環器センターへのご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。私の就任のご挨拶とさせていただきます。

連携室だより

骨密度測定装置について

最新鋭の骨密度測定装置を設置しています。



- ◆当院では最新鋭のDXA法による骨密度測定装置を設置し、骨粗しょう症の診断及び治療を行なっております。
- ◆この骨密度測定装置は、1回の検査で骨折が発生しやすい腰椎部、大腿骨部の骨密度を直接測定可能な装置です。
- ◆検査は、約5～10分以内で行なえ、痛みもありません。

第3回中部ろうさい病院緩和ケア研修会のご案内

この度、当院ではがん診療拠点病院の事業の一環として、厚生労働省の「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会の開催指針」（平成20年4月1日付け健発第0401016号厚生労働省健康局長通知）にそった緩和ケア研修会を開催することになりました。

日時 平成24年10月20日(土) PM1:00~PM7:05
平成24年10月21日(日) AM9:00~PM5:45

場所 中部ろうさい病院 2階講堂

対象 がん診療に関わる医師 定員18名

申込期限 平成24年9月7日(金)

連絡先 中部ろうさい病院 経営企画課 磯部
TEL:052-652-5511
FAX:052-653-3533
Email: isobe.ad1@chubuh.rofuku.go.jp

リニアックの更新について

リニアック老朽化に伴う機器更新のため、放射線治療を制限しています。機器更新後の治療再開時期につきましては、来春を予定しています。機器更新の折は改めてお知らせいたします。

医師交代

☆採用 (平成24年7月1日付)
藤原 多子 産婦人科第二部長
篠田 典宏 循環器内科副部長
宇佐見 一公 歯科口腔外科副部長
高山 洋平 循環器内科医師
竹下 昌宏 循環器内科医師

☆採用 (平成24年8月1日付)
矢野原 元 耳鼻咽喉科医師

☆退職 (平成24年4月30日付)
木附 康 心療内科医師

☆退職 (平成24年6月30日付)
鈴木 昭博 一般内科医師
森田 大悟 整形外科医師
新保 雄作 循環器内科医師
水野 大生 歯科口腔外科医師

☆退職 (平成24年7月3日付)
浅野 俊哉 眼科部長

☆退職 (平成24年7月31日付)
小木曾 清二 外科部長
和田 健一 耳鼻咽喉科医師
長島 勇子 リハビリテーション科医師

当院の理念

皆さんとの出会いを大切にし、苦しみを分かち合い、健康で潤いある生活を送れるよう職員一同努めます。

当院の基本方針

- ・医療の質の向上と安全管理の徹底
- ・生命の尊厳の尊重と患者さん中心の医療
- ・人間性豊かな医療人の育成と倫理的医療の遂行
- ・地域社会との密な連携と信頼される病院の構築
- ・災害・救急医療への積極的な貢献と勤労者に相応しい高度医療の提供

☎地域医療連携室 (平日 8:15~19:30) 室長: 小林 建仁 (副院長)
052-652-5950 (TEL) 佐野 隆久 (副院長)
052-652-5716 (FAX) 事務担当: 今関 信夫・金井 久実